



第 192号

連携室だより



公益財団法人 帯広第一病院
北海道医療団

帯広第一病院理念・基本方針

【理念】

地域に信頼される病院を目指し、質の高い、思いやりのある医療サービスを提供する。

【基本方針】

- 1 患者の皆様の安全と権利を守ります。 2 地域医療機関との連携を推進します。
- 3 救急医療の充実に努めます。 4 研修や教育を積極的に行います。 5 働きがいのある職場を作ります。



帯広第一病院



介護老人保健施設とかち



音更病院

公益財団法人北海道医療団 永年勤続表彰式

今号の内容

- ・新年のご挨拶 理事長 小林 光樹 / 院長 山並 秀章 (2)
- ・医療社会事業科と地域医療連携室よりお知らせ 医療社会事業科長 林 栄一 / 地域医療連携室長 圓佛 かほる (3)
- ・令和3年度理事長賞授賞式 理事長 小林 光樹
- 認定看護師による在宅同行訪問について 皮膚・排泄ケア認定看護師 川浦 美和子 (4)

新年のご挨拶



理事長

こばやし こうじゅ

小林 光樹

昨年新型コロナウイルスの感染拡大にともなって、往來の制限や直接の対面・会合の自粛などがあり、顔の見えない時間が続いてしまいました。残念ながら新年に入り、帯広第一病院で再度の新型コロナウイルス感染症のクラスター発生があり、皆様には大変ご迷惑をおかけしました。ただ、この経験の中で職員には感染症を含め病気の理解と知識がより深く蓄積されました。この経験をばねにして、一層の地域医療と保健に向けた努力をしていきます。

北海道医療団は、帯広第一病院、帯広西病院、音更病院、ながい内科、老健とかち、訪問看護ステーションたなごころ、ヘルパーステーションほほえみ、ケアマネジメントセンターほほえみ、音更町地域包括支援センターほほえみが、それぞれの特徴を生かして急性期から慢性期、在宅支援までをカバーできるように運営しています。新型コロナによる制限が続く中でも、顔の見える環境・関係を築くようにしていくつもりでありますので、今年もどうぞよろしくお願いいたします。



院長

やまなみ ひであき

山並 秀章

あけましておめでとうございます。

昨年5月末の院内クラスター発生後、ようやく診療も以前のように回復したと思っていた矢先に新年早々、再度クラスターを発生させてしまいました。十勝管内でも新型コロナウイルス感染者が急増し、本来この対応に尽力しなければならない時期に通常診療ができなくなってしまい、他医療機関の方々には非常にご迷惑をおかけいたしました。誠に申し訳ございません。その他、二次救急当番、PCR検査、透析患者の引き受け等についてもご支援をいただき、ありがとうございました。クラスター収束後はすみやかに以前通りの診療体制をとれるように職員一同、努力してまいります。

今後も十勝管内の地域医療に貢献していく所存ですので、今年もよろしくお願いいたします。



医療社会事業科と地域医療連携室よりお知らせ



医療社会事業科長

はやし えいち

林 栄一

地域の先生方には、平素より大変お世話になっております。本年もどうぞよろしくお願い致します。2022年1月より地域医療連携室の体制が変わり、社会福祉士（MSW）と事務職員の機能を分割することになり、社会福祉士は診療支援部門「医療社会事業科」として独立することになりました。

現在社会福祉士は6名配置されており、入退院支援部門として、退院支援看護師と協働での退院支援、また入院相談や各種相談支援業務、その他、患者サポート窓口としての役割を担っております。

現状はコロナ禍にあり、地域の医療提供体制、コロナ対応に伴う院内の病床制限等、状況が変わりつつあります。対面での相談、カンファレンスなどが難しい中、現在の状況に合った地域の皆様との連携について更に取り組んでいきたいと思っております。

なお、この度の機能分割により、これまでの日常業務に関しては大きな変更点はございません。事務所も変わらず、当院3階B棟の同じ場所で活動しており、他部署との連携も変わらず図れるよう対応致します。以前からの思いでもある「小回りの利く対応」を考え、今後も活動していきたいと思っております。



地域医療連携室長 法人業務推進室長兼務

えんぶつ かおる

圓佛 かほる

地域の先生方におかれましては、平素より当院地域医療連携室の運営に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当連携室が所属する地域医療連携課は、2022年1月から組織体制変更で、同課所属社会福祉士が診療支援部門の「医療社会事業科」として独立し、入退院調整、医療相談等の業務を移管しました。残るは事務局所属の「地域医療連携室」となり、連携課は廃止となりました。今回の変更に伴いこのたび地域医療連携室室長を拝命いたしました。

新体制下の地域医療連携室では、これまでの連携課の事務職員が引き続き、院外と院内をつなぐ窓口として、受診・検査予約、返書などの文書管理を行い、紹介患者様のスムーズな受診、地域の先生方へのご報告を行いますので、安心して連携室をご利用いただけますと幸甚に存じます。

またスタッフ一人一人が、事務職員として情報収集・分析力、発信力の向上に努め、地域の皆様が必要とされる院内外の情報を、よりスピード感をもって提供していきたいと考えております。

これからも地域に信頼される病院を目指し、地域の医療機関の皆様との連携に積極的に取り組んでまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

令和3年度理事長賞授賞式



理事長 小林 光樹

日頃からいい仕事振りを見ると心の中で拍手をしています。皆さんからも拍手をどうぞ。

帯広第一病院の看護部4A病棟と総合診療科竹中部長。新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生する中で、初期段階から多くの陽性患者さんに対応し一番ご苦労をおかけしました。

帯広西病院リハビリテーション科。回復期病棟で在宅復帰率の向上、療養病棟で退院促進と退院後も終生支援するという事業計画でリハビリテーション科が医業収入増収に大きな貢献を果たしてくれました。

音更病院早川院長。音更病院は新型コロナウイルス感染の発生当初から、感染拡大の危機意識を高め、出来る限りの対策を行っていただきました。

老健とかち（高橋士長）／ヘルパーステーションほほえみ（野原所長）／ケアマネジメントセンターほほえみ（船田所長）／音更町地域包括支援センターほほえみ（橋本センター長）。老健とかちは、新型コロナウイルス陽性者判明時に施設一丸で対応し感染拡大を防ぎ、ほほえみ各事業所は老健とかちでの感染対応により介護サービスを受ける事が困難になった利用者に協力して介護サービスを提供しました。

認定看護師による在宅同行訪問について

皮膚・排泄ケア認定看護師 川浦 美和子

2012年の診療報酬改定における重点課題の一つとして「効果的で質の高い訪問看護の推進」が打ち出され、具体的な内容として専門性の高い看護師による訪問の評価が明示されました。

皮膚・排泄ケア認定看護師として褥瘡やストーマケアに対して訪問看護師に同行し、実際に患者様の生活の場を見せていただくことで、より個別的なケアの提供やアドバイスができることを感じていました。

しかし全国的にも介入件数は少なくその要因として、

- ①利用者への負担が増えること ②在宅主治医に関連した問題 ③システムに関連した問題 ④他施設との連携の問題 ⑤介護者に関連した問題 などが統計として示されております。

11月と12月に、2件訪問の機会があり介入致しました。1件は訪問看護ステーションからの依頼で、御家族様への指導と協力依頼、訪問看護師との連携と情報共有により問題解決をすることが出来ました。もう1件は褥瘡で当院を受診されたグループホームの患者様を訪問看護につなぎ、介入することが出来た症例です。

当院では訪問同行できる体制を整えております。この場をお借りし、まずは地域の医療機関の皆様へ、この活動をご理解の上ご承知頂き、お気軽に声をかけていただけましたら幸いです。

発行 公益財団法人北海道医療団 帯広第一病院 地域医療連携室

〒080-0014 帯広市西4条南15丁目17番地3 TEL 0155-25-3121(病院代表)

【地域医療連携室】

TEL 0120-558-091(連携室直通)

FAX 0155-27-0248(連携室専用)

連携室専用e-mail renkei@zhi.or.jp

